



PDF



25 . ドジョウ (ドジョウ科)



「 Donguri コロコロ Donguriko…… 」と池の中のやさしいヒゲのおじさんを演じる役回りは、その姿・形から、まさにピッタリ合っている。そのユーモラスな顔は、普も今も親しみをもたれている。食用にもよく利用され、[柳川鍋](#)、[蒲焼き](#)、みそ汁などにされて美味である。

平野部の浅い池や水田、川やその細流にすむ。

全長15cmになる。口ひげは5対、産卵期は4~6月で雄が雌の体にまきついて腹部をしめつけ、水草の根や茎に卵を産みつける。

流れのほとんどない泥底を好み、底生藻類やその分解物を泥土とともに吸いこんで食べる。イトミミズや[ユスリカ](#)などの動物もよく食べる。酸素欠乏にきわめて強く、水面へ上がってきては、口から空気をすって[腸呼吸](#)をする。

北海道から九州、沖縄まで広い範囲に分布する。

市内では、西区の明石川をはじめ、池や水田でときどき見られるが、最近はその数が少なくなっている。

山地を流れる生田川の市が原や、都賀川の河口でもすむが、これは、ドジョウの放流が行われて、それが生き残ったものかもしれない。



明石川



Misgurnus anguillicaudatus (CANTOR)



デジタル化 神戸の自然シリーズ 20 神戸の淡水魚 メニューへ